

平成26年度

佐倉市議会 意見交換会

報告書

平成26年11月1日(土)

佐倉市役所議会棟

## 〔 開催概要 〕

- ◆**テーマ** 『高齢者が安心して暮らせるまちづくり』
- ◆**日時** 平成26年11月 1日（土） 午後1時30分～午後3時30分
- ◆**会場** 佐倉市役所 議会棟  
全員協議会室（全体会議）  
第二委員会室、第三委員会室、第四委員会室（グループ会議）
- ◆**参加者** 特別養護老人ホーム施設長 9名  
佐倉白翠園：竹内久美子、志津ユーカリ苑：佐川章、はちす苑：安部一義、  
ゆたか苑：内川浩明、弥富あさくら：政狩淳子、ときわの杜：奥山裕子、  
ちとせ小町：関根直也、さくらの丘：大嶋和俊、眞榮の里：佐藤由佳  
地域包括支援センター管理者 5名  
志津北部：畠山朝子、志津南部：鈴木孝好、臼井・千代田：佐藤智之、  
佐倉：松尾徳子、南部：高梨子淳一  
民生委員・児童委員 12名  
佐倉地区民児協：阿部和子、清宮美智子、臼井地区民児協：塚本清一、  
大谷芳功、志津北部民児協：釵地平子、村山房子、  
志津南部民児協：黒川隆生、廣地富夫、根郷地区民児協：小林眞智子、  
和田地区民児協：圓城寺卓也、弥富地区民児協：林久雄、  
千代田地区民児協：堀内成雄  
佐倉市議会議員 26名  
議長：中村孝治、副議長：押尾豊幸  
議員：高木大輔、大野博美、爲田浩、岩井功、橋岡協美、久野妙子、  
井原慶一、石渡康郎、松原章、上ノ山博夫、萩原陽子、伊藤壽子、  
五十嵐智美、村田穰史、小須田稔、柏木恵子、岡村芳樹、川名部実、  
櫻井道明、山口文明、森野正、清宮誠、桐生政広、望月清義  
合計52名（順不同、敬称略）

## 〔 主な意見 〕

### 「現在の状況や課題」

(特別養護老人ホーム施設長)

- 職員の数と質の確保が大きな課題。職員のなり手がおらず、募集してもなかなか人が集まらない。せっかく職に就いても、定着せず辞めてしまうことも多い。全国的な課題である。
- 長時間勤務の職員を募集するも集まらないため、地域の人を短時間のパートで雇用するなどもしている。求人施設側と働きたい人とのマッチングの問題。
- 施設はほぼフル稼働で、職員数はギリギリでやっている。すぐには補充もできない。経験がない人でもじっくり教えていけば、立派な職員になれるので、未経験者でも受け入れたい。
- 外国人労働者は、言葉や資格の問題など、不安要素が多い。
- 特養への入所希望者は、以前より減っているのではないかと。来年度の法改正後、原則要介護3以上が入所可能となるが、どの程度希望者がいるのか未知数。
- デイサービスの利用者はそれほど増えていない。一方、在宅でのホームヘルパーのニーズも減っていない。

(地域包括支援センター管理者)

- 介護保険につなげるなどの総合相談対応のほか、としとらん塾や介護者の集いなどの事業も実施、地域にも積極的に出向いている。
- 相談件数も増えており、各個人がそれぞれ抱える問題、相談内容も多様化、複雑化してきている。
- ケアマネや民生委員の方々と、定期的に情報交換会を実施している。
- マンションやアパートの住民は、近所付き合いが少なく、情報の把握ができないことが多い。農村部は共助がある。
- 市内の中でも、各地域によって、それぞれ異なる課題や問題点があると感じる。

(民生委員・児童委員)

- 民生委員の仕事の8割以上が、高齢者関係ではないかと。ボランティアや高齢者クラブなど地域団体のまとめ役も担っている。
- 本人の同意を得て、要援護者台帳を整備した。
- 要援護者台帳だけでは不十分で、それぞれの状況を記したマップを独自に作成した。
- 地域包括支援センターが認知されたのか、民生委員への直接の相談が少なくなった。
- 行政や周りに面倒を見てもらわなくてもいいと思っている高齢者は多くいる。80歳代でも高齢者台帳に掲載されるのを嫌がる方も多い。
- 個人情報保護の関係もあり、情報の把握は簡単ではない。地域でのサロンや地区社協の行事などを通じて把握できることも多い。
- 高齢でも元気な人はたくさんいる。何かしたいと思っている人もたくさんいる。
- 高齢者が家に閉じこもらないような取り組みを検討中。お互いに顔の見える関係づくりを。普段からの声かけや見守りが重要。

## 「今後に向けた意見や提言等」

- 認知症患者の増加に対して、地域のみんなで高齢者を見守るという明確なメッセージが必要。
- 介護難民が増えることが予想される。介護施設に入れない介護者をボランティアだけで支えることは難しい。どのように地域の人たちと支えていくかが大きな課題。
- 表に出てこない要援護者の把握、アプローチをどうすべきかが課題。
- 女性は比較的外に出てくる傾向にあるが、男性は閉じこもりが心配。
- 看取りをどうするかが課題。
- 地域力の活用には、小さい地域でまとまって活動する必要がある。さまざまな団体があるが、それをコーディネートする人がいるといい。
- 高齢者クラブの見直しを。40歳以上を準会員に。
- ボランティアのポイント制度の導入。
- 地域の身近な場所に、サロンなど的高齢者の居場所をもっとつくってほしい。
- 住民主体型の健康づくりを推進してほしい。
- 高齢者が利用しやすく、また地域全体でも利用しやすい交通機関の充実。
- 歩道の確保や段差の解消などの道路整備。
- 介護の職場や仕事を魅力あるものにしないといけない。介護職の待遇改善も。
- 小中学生の職業体験などを通じ、高齢者施設を身近に感じ、働きがいのある職場だと認識してほしい。
- 地域包括支援センターの認知度がまだまだ低く、どのような相談の窓口なのかわからない人も多い。さらなる広報、周知活動が必要。
- 地域包括ケアシステムに対応するためには、今の地域包括支援センターの規模や人員では厳しい。さらに多くの場所につくるのは大変であり、今のセンターの人員や規模を充実させるべき。

# 会議風景

## ◆全体会議



主催者（議長）あいさつ



特別養護老人ホームの施設長、  
地域包括支援センターの管理者、  
民生委員・児童委員のみなさん

## ◆グループ会議



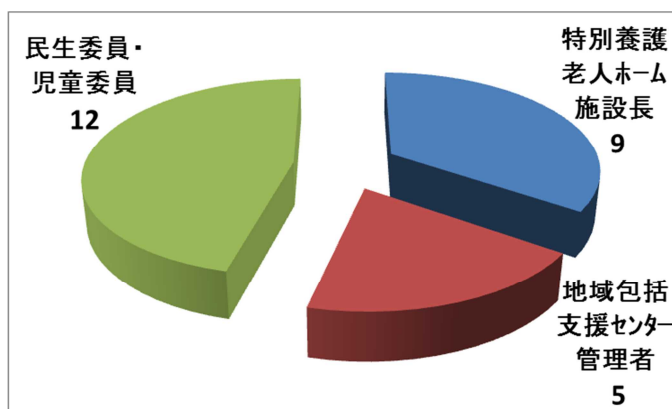
## 〔 参加者アンケート集計結果 〕

※特別養護老人ホーム施設長、地域包括支援センター管理者、民生委員・児童委員の参加者計26名全員から回答

### 1. ご自身のことについてお聞きします。

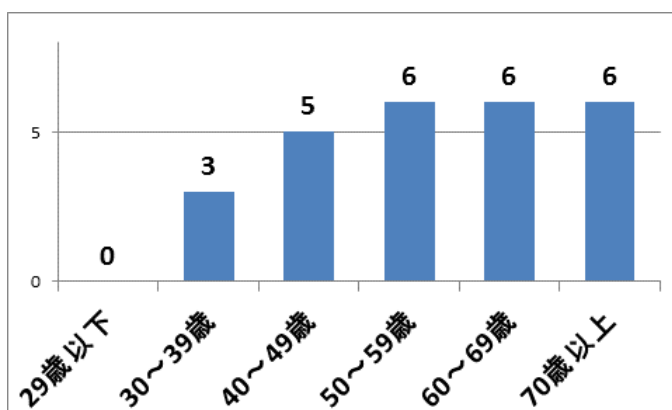
#### (1) 所属

特別養護老人ホーム施設長	9
地域包括支援センター管理者	5
民生委員・児童委員	12
計	26



#### (2) 年齢

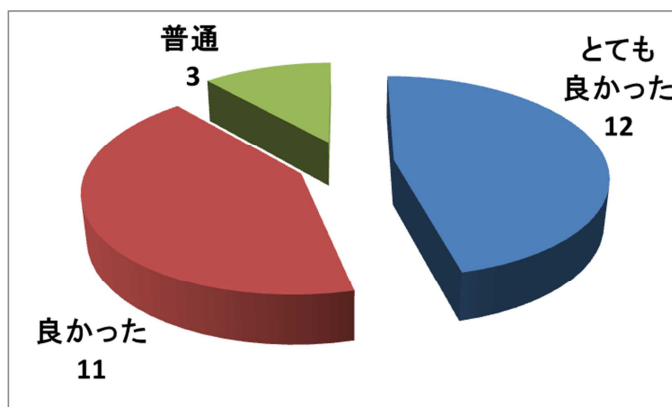
29歳以下	0
30～39歳	3
40～49歳	5
50～59歳	6
60～69歳	6
70歳以上	6
計	26



### 2. 意見交換会の内容についてお聞きします。

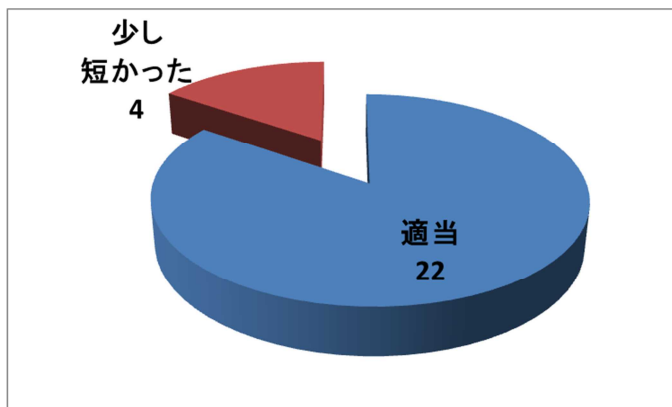
#### (1) 今回参加してみてもの印象についてお聞かせください。

とても良かった	12
良かった	11
普通	3
悪かった	0
とても悪かった	0
計	26



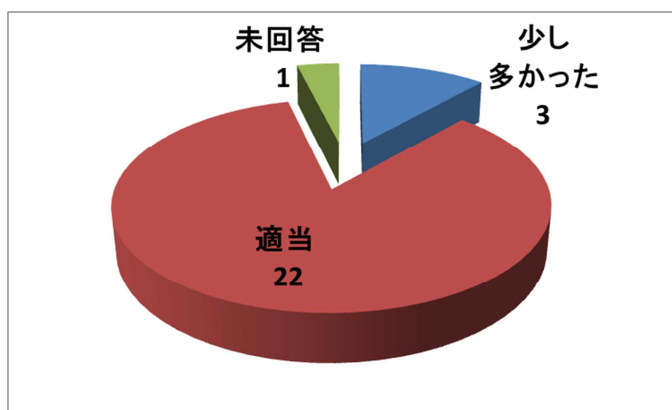
(2) 意見交換会の時間は適当でしたか。

長かった	0
少し長かった	0
適当	22
少し短かった	4
短かった	0
計	26



(3) グループ会議における人数は、意見交換するのに適当でしたか。

多かった	0
少し多かった	3
適当	22
少し少なかった	0
少なかった	0
未回答	1
計	26



(4) 今回の意見交換会について、ご意見や感想がございましたら、ご自由にお書きください。

- 市の問題について限定で話を進めた方がよかったのでは。どうしても福祉は国の制度にのっとっているので、市としての意見を求めにくい。
- 高齢者、介護に関する問題に取り組むに当たり、医療従事者も意見交換会に参加されると、問題への切り込みに偏りがなくよいと思う。
- 包括支援センターの方、民生委員の方の活動の様子がわかり参考になった。施設単独だけでなく地域や社協、ほかにも多くの方々と連携していければと思う。
- 福祉人材の枯渇を解消させる方法を皆で考えてほしい。
- 地域における一軒、一人一人のケアプランをいかにつくるか、その状況をどのように把握するか。
- 地域で支援されて生活ができればよいと思うが、非常に難しい課題だと思う。介護保険だけでは厳しいので地域の力を上手に使えばよいかと…。
- あまりにも急速な高齢化であるから、地域の力、家族の力で乗り切るには無理がある。国として大きな力で問題を解決しなければならないと思う。
- 今後ますます高齢化が進み、包括支援センターの業務も複雑な相談なども増えてくると思う。人員を増やしていただくと助かる。
- 地域包括ケアシステムについて、専門職や関係者だけでなく、住民一人一人にわかるよう広報してほしい。

- いろいろな課題があるかと思うが、今後も地域のために頑張っていきたいと思う。今度は同じ圏域の方と意見交換できたらと思う。
- いろいろな立場での高齢者に関する問題を知るよい機会になった。もう少し具体的なテーマでの話し合いが持てるとよかったのかなと思う。看取りに関しても、高齢者が非常に困難に思っている点だと思うので、医療との連携（訪問診療など）が重要と思う。
- 農村地域は交通機関が不足している。交通を充実することでコミュニティがよくなると思う。民生委員さんと連携しているが、議員とは初めてだった。今後もこのような機会をお願いしたいと思う。
- 課題として提言された内容が、一刻も早く実現されることを願っている。
- 職種や役職によって、見えているものが違うことがわかった。それぞれの立場の意見が聞けたことはよかったと思う。
- 介護認定された方以外のサービスが必要と思う。
- 各関係者間で本当に良い意見交換ができたと思う。参加させていただいてよかった。
- 市からの放送が聞きづらい。有線を入れてほしい。
- 介護保険改定に伴う種々の問題点を解決する方策、対策が急務である。弥富の交通問題を何とかできませんか。
- 大きな流れとして、高齢者は増え、その増え方に見合う予算の拡大はあり得ないので、物質的なサービスの低下はしかたないと思う。問題はそれをカバーする心のサービス、満足度をどう上げるかだと思う。
- 担当地区が高齢化率が比較的低いため、急激な問題になることはないが、あと10年も過ぎると大きな問題になってくると思われる。今後にもこういう機会をつくっていただければ参加したいと思う。
- 市議会の議員と率直な意見交換ができ、大変有意義な時間を共有できた。個人情報の問題についても、昨年度から75歳以上の名簿をいただくことができ、日頃の活動にも利用でき助かる。
- 国がダメと言っていては何も進行しない。地域でできることは地域で。各部署の連帯が重要ではないか。
- 共通性のある地域でのグループが適当と思う。



平成26年度佐倉市議会意見交換会の開催にあたり、秋の各種イベントや行事などで多忙な時期にもかかわらず、ご協力いただいた皆さま方には、大変感謝申し上げます。

今回の意見交換会は、今後のさらなる少子高齢化の進展に伴い、高齢者数の増加やますます高まる介護需要などに対処するためには、地域においてもその対応が求められてくるものと想定されることから、「高齢者が安心して暮らせるまちづくり」をテーマに設定し、日頃より高齢者に携わる機会の多い市内の特別養護老人ホームの施設長、地域包括支援センターの管理者、民生委員・児童委員との間で、それぞれが持っている情報の共有やお互いが抱えている意見の相互把握ができればということで開催させていただきました。

普段はなかなかお話しできる機会もなく、また1グループ20名弱とはいえ議員との意見交換ということで、はじめのうちは緊張や遠慮されていた方も見受けられましたが、議論が進むにつれ、少しずつではありますがご自身のお考えや意見をお話しただけなのではないかと感じています。

我々にとっても、概略的には理解していても、より具体的な深い部分ではどのような状況か把握していない部分も多くあったほか、あらためて問題を再認識させられることもあり、まさにあらたな情報の共有や意見の把握といった意見交換会の目的を果たすことができ、大変貴重な機会となりました。

今回の参加者に限らず、地域で暮らす一人一人がともに支え合い、地域全体で高齢者が安心して暮らせるまちを目指し、今後とも協力し合い、取り組むことができればと思います。

広報公聴委員長　：石渡康郎

〃　副委員長：久野妙子

## 平成26年度 佐倉市議会 意見交換会 報告書

発行者：佐倉市議会

編集：広報公聴委員会

委員長：石渡康郎

副委員長：久野妙子

委員：高木大輔 五十嵐智美 村田穰史 小須田稔

川名部実 櫻井道明 望月清義

発行年月：平成27年1月